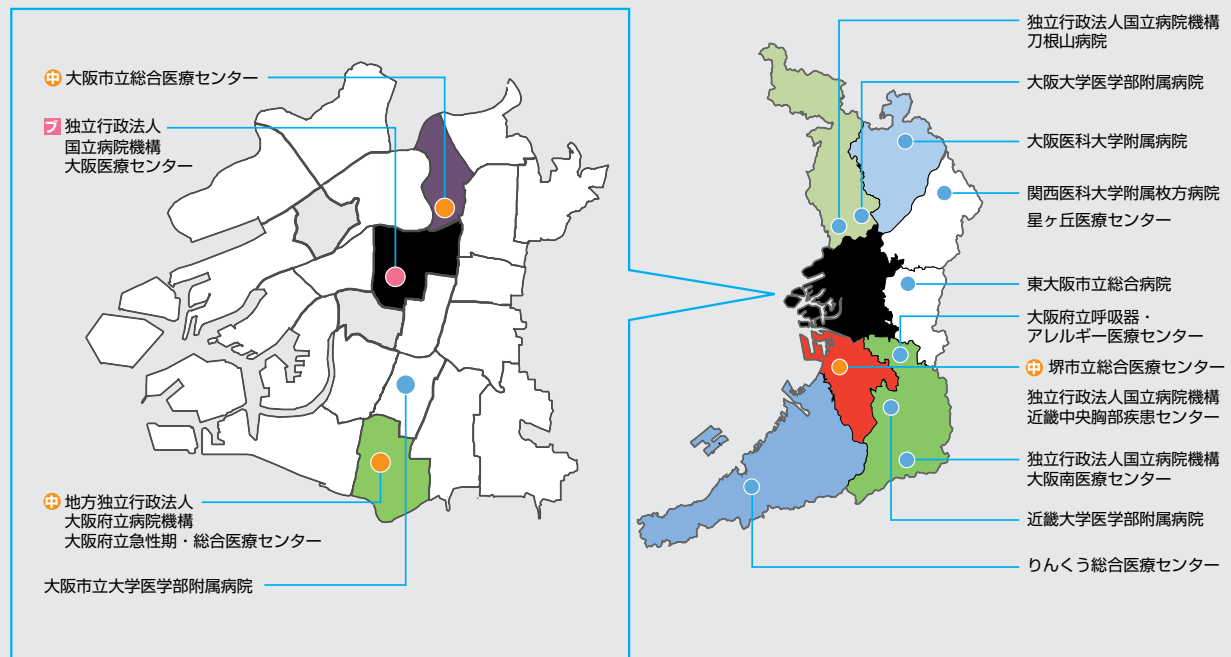
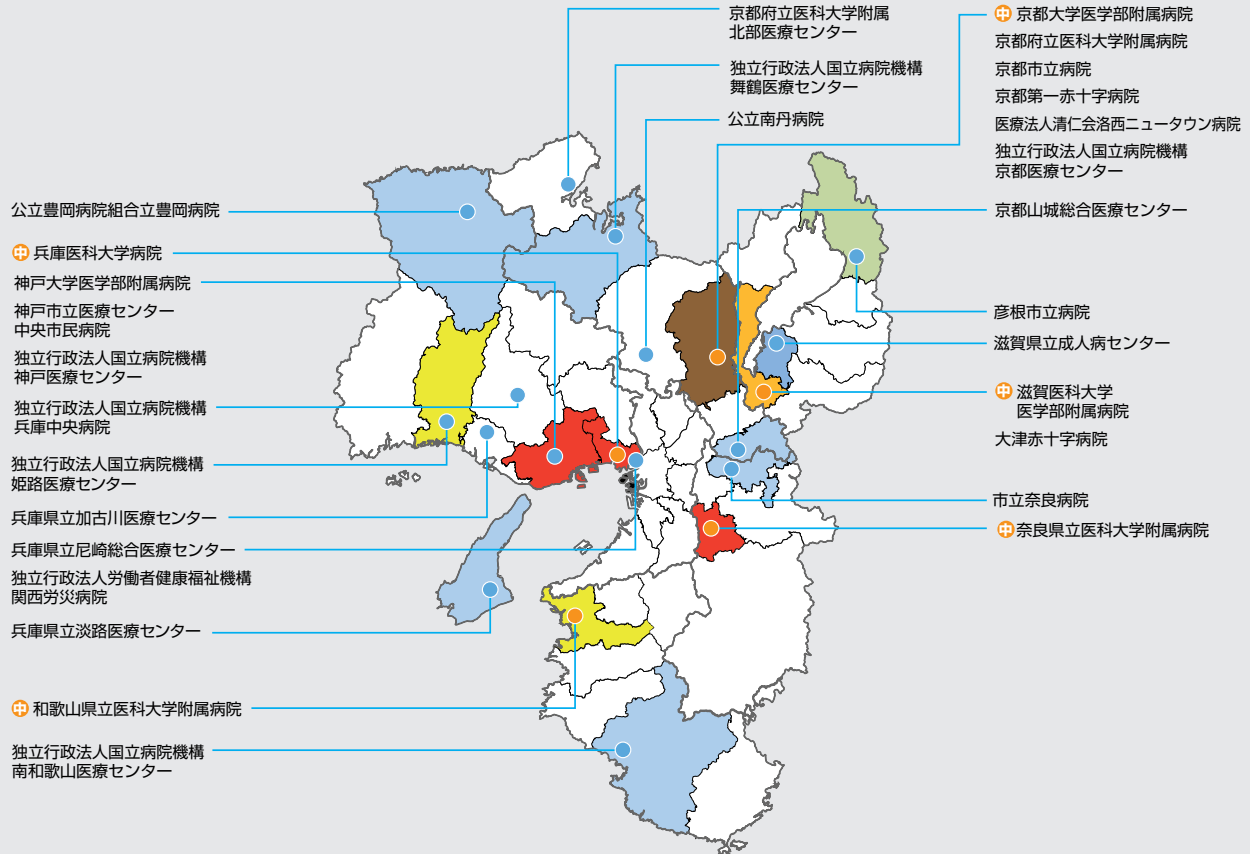


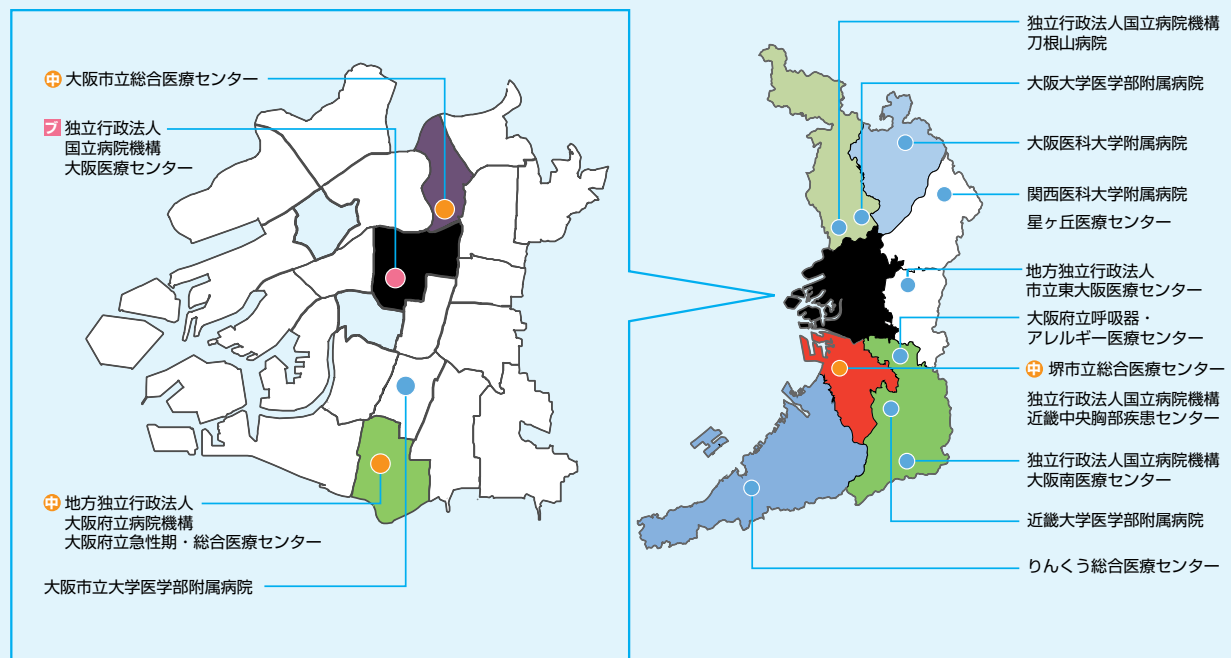
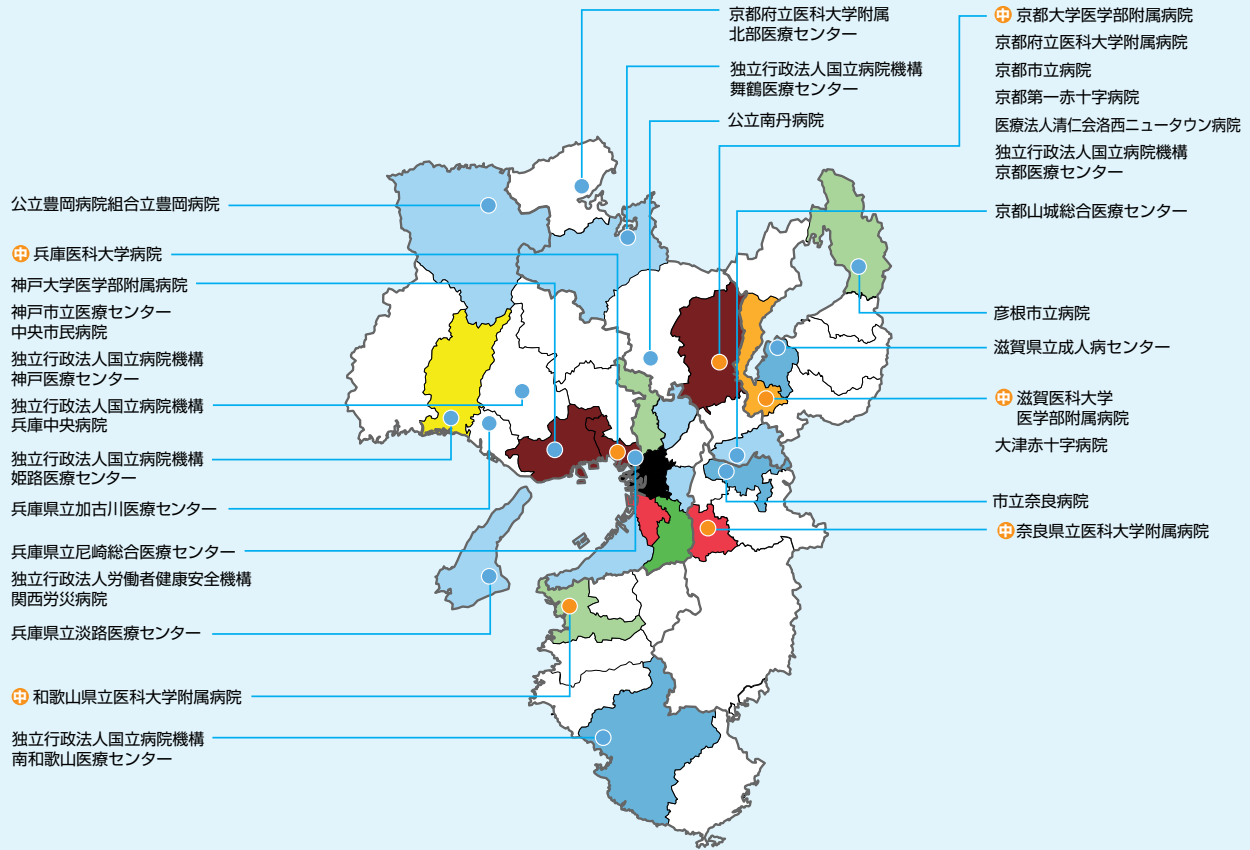
## HIV診療の現況報告 近畿ブロック

研究分担者 白阪 琢磨（独）国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部長

2016年度



2017年度





## 近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 白阪 琢磨

(独) 国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター  
エイズ先端医療研究部長

### 研究結果

#### 1. 拠点病院の診療状況

##### (ブロックのHIV/AIDSの診療体制)

エイズ動向委員会の2015年の近畿ブロックの年間報告数は関東、東京に並んで多い状況が続いている。近畿ブロックのエイズ診療拠点病院45施設での定期通院数は2000人以上から0人で平均94名（中央値8名）と幅があるが、定期通院患者なしは8施設であった（別紙参照）。近畿ブロックは他のブロックよりも地理的にコンパクトと言えるが、山岳部や沿岸（湖岸）沿い、離島など交通網があまり発達していない地域もあり拠点病院へのアクセスが困難な地域がある。過疎地ではプライバシーの観点から身体障害認定申請が出来ないなど近畿ブロックでも課題は多い。交通の便の良い都市部では、院内・院外で研修会が開催され、各自治体との連携もはかられ、HIV曝露後感染予防対策の体制や歯科診療体制の整備もはかれるなど課題の解決に向けて取り組まれていたが、透析クリニック、一般診療施設の確保など課題も依然として多く、マンパワー不足、専従看護師の育成、歯科および長期療養者の受け入れ施設の構築が共通の課題であった。

#### 2. HIV/AIDS診療の現況

近畿ブロックのエイズ診療拠点病院45施設の中で、care cascade算出対象となった施設30施設では、定期通院者で必要な治療を受けているのは94.2%、その中で治療成功例は99.7%であった。有効な回答が得られなかった施設もあり、引き続き調査が必要であるが、近畿ブロックでもHIV/AIDS診療の90-90-90目標に対し、概ね達成できていると考えられる。

#### 3. 血友病薬害被害者の現状

医療体制班の調査および「近畿ブロックのHIV患

者受診状況調査（平成28年10月大阪医療センター実施）」の結果から、近畿ブロック拠点病院の血友病薬害被害者の通院者数は76名であった（重複例を含む）。

HCV感染症の治療については、全国共通の課題であるが、非代償性肝硬変になると適応外と判断されてしまうこと、腎機能障害がある場合の治療、ゲノタイプ1型にはGrazoprevir+Elbasvir併用療法が可能であるが、逆にゲノタイプ1型以外ではIFNフリーのDAA治療がないことが課題として指摘されている。

大阪医療センターで治療を受けているHIV/HCV重複感染症例には院内で抗HIV薬と同様に抗HCV薬の服薬指導も行っている。HCV単独感染例については診察医からの依頼が無ければ薬剤師の服薬指導は行えていないのが現状である。また、院外保険薬局とは現在、定期的に抗HIV薬および服薬指導に関する情報提供を行っていることから、抗HCV薬についても同様に連携を進めていく。

#### 4. ブロック内拠点病院、地域の医療・福祉施設

##### および行政との連携の現状と課題

近畿ブロックでは年2回、ブロック内の自治体HIV担当者およびエイズ診療中核拠点病院の医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・ソーシャルワーカー等が参加する「近畿ブロックエイズ診療中核拠点病院連携打ち合わせ会議」を開催している。各自治体の現状、および、中核拠点病院とブロック拠点病院の診療状況、行政の取り組み（予防啓発、検査状況等）について報告し、課題（歯科や精神科疾患、救急医療、透析医療、長期療養の診療体制の整備）を共有化している。地域の医療・福祉施設の連携は、地域の必要度に応じて濃淡はあるが、各地方行政を調整役として進めており、職業曝露後の受診及び予防薬での連携体制や歯科の診療ネットワークなどが少しずつ構築されてきている。長期療養での福

社サービスについては、厚労科研補助金HIV感染症及び合併症の課題を克服する研究班や地方自治体と共同で訪問看護ステーションや福祉施設従事者向け研修会等を開催し、必要性和対応可能である事の認識を広めており、少しずつ効果が認められてきている。具体的には、在宅サービス（訪問介護、訪問看護）については引き受け先もあり以前よりは円滑な導入が出来ている。介護保険施設（特別養護老人ホーム（特養）、介護老人保健施設（老健））、療養型の病院への受入については引き続き容易ではない。

## 5. 診療の中核となる医療機関における診療体制継続のための人材育成と維持について

平成28年10月に大阪医療センターで実施した「近畿ブロックのHIV患者受診状況調査」の各拠点病院の回答より、後継者不在、医師の不足、HIVのカウンセラーがいない（医師・看護師がある程度代行）、育った看護師が休職したり異動したりする、通院患者数が少ないため「専従」の看護師やソーシャルワーカー、カウンセラーといったHIV診療で包括的で充実したケアを行うために望まれる人員の不在、当院は呼吸器科専科病院なので全身感染症としてのHIV診療には困難があるなどの課題が寄せられた。

## 6. その他

職業曝露後のHIV感染予防対策における受診及び予防薬の体制は、大阪府下11施設（大阪医療センターでは365日24時間対応）、滋賀県9施設、京都府12施設、和歌山県7施設、兵庫県11施設、奈良県2施設で対応可能である。いずれも府県のホームページに掲載している。

## 考察

治療の進歩によりHIV感染症およびHIV/HCV重複感染の予後は一般に大きく改善した。しかし、薬害HIV血友病患者の多くはHIV/HCV重複感染であり、抗HIV薬の長期服用による腎障害や骨等の代謝異常症や、進行した肝疾患の状況への対応に困難な症例が少なからず存在している。わが国においては欧米に比し、HIV感染者、AIDS患者の新規報告数は少数に留まっていると言え、HIV感染症は未だに稀な疾患と言えるだろう。社会には未だにHIVへの

無知と偏見が存在していると言わざるを得ない生活環境を考えれば、薬害HIV感染者の病態が複雑で一般化が困難であり、個別対応が出来る体制が求められる。血液製剤由来HIV感染以外の感染者については、上記の理由から、診断からしばらくは経験豊富な施設で対応し、安定すれば地域の拠点病院に通院するという連携や、精神科、歯科、透析などの一般医療機関の参加が強くと求められる。福祉サービスの提供は施設の理解と努力だけでは対応困難な事例もあるので、一般国民のHIV感染症への正しい理解が求められ、啓発の意義は大きいと考える。

## 結論

薬害HIV（HCV）感染者は依然として厳しく余談を許さない状況にあり、個別で適切な対応が求められている。病状が安定した患者でも加齢および長期療養に伴う心身・生活環境の変化に応じた医療・ケアの提供と地域支援体制の確立が急がれる。

## 研究発表

### 原著論文による発表

#### 欧文

- 1) Yagura H, Watanabe D, Ashida M, Kushida H, Hirota K, Ikuma M, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T. Correlation between UGT1A1 polymorphisms and raltegravir plasma trough concentrations in Japanese HIV-1-infected patients. *J Infect Chemother.* 21(10):713-7, 2015 Oct. Epub 2015 Jul 6.
- 2) Watanabe D, Suzuki S, Ashida M, Shimoji Y, Hirota K, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T. Disease progression of HIV-1 infection in symptomatic and asymptomatic seroconverters in Osaka, Japan: a retrospective observational study. *AIDS Res Ther.* 12:19. 2015 May
- 3) Koizumi Y, Uehira T, Ota Y, Ogawa Y, Yajima K, Tanuma J, Yotsumoto M, Hagiwara S, Ikegaya S, Watanabe D, Minamiguchi H, Hodohara K, Murotani K, Mikamo H, Wada H, Ajisawa A, Shirasaka T, Nagai H, Kodama Y, Hishima T, Mochizuki M, Katano H, Okada S. Clinical and pathological aspects of human immunodeficiency virus-associated plasmablastic lymphoma: analysis of 24 cases. *Int J Hematol.* 2016 Sep 7. [Epub ahead of print]

- 4) Akita T, Tanaka J, Ohisa M, Sugiyama A, Nishida K, Inoue S, Shirasaka T. Predicting future blood supply and demand in Japan with a Markov model: application to the sex- and age-specific probability of blood donation. *Transfusion*. 2016 Sep 5. doi: 10.1111/trf.13780. [Epub ahead of print]
- 5) Ikuma M, Watanabe D, Yagura H, Ashida M, Takahashi M, Shibata M, Asaoka T, Yoshino M, Uehira T, Sugiura W, Shirasaka T. Therapeutic Drug Monitoring of Anti-human Immunodeficiency Virus Drugs in a Patient with Short Bowel Syndrome. *Intern Med*. 2016;55(20):3059-3063. Epub 2016 Oct 15.
- 4) 白阪琢磨：現代的健康課題について－HIV/エイズや性感染症について－。平成27年度新規採用養護教諭研修（第10回）、2015年11月、大阪。
- 5) 白阪琢磨：HIV最新情報について解説。読売テレビ「情報ライブミヤネ屋」、2015年11月、大阪
- 6) 白阪琢磨：近畿ブロック拠点病院でのHIV診療の現状。平成27年度HIV医療研修会、2015年12月、大阪。
- 7) 白阪琢磨：職業曝露後対策について－HIVを中心に。大阪府医師会労災部会 第2回労災医療研修会、2015年12月、大阪。
- 8) 西川歩美、安尾利彦、森田眞子、大谷ありさ、宮本哲雄、下司有加、白阪琢磨：HIV感染症患者における初診時のメンタルヘルス等の諸因子と、その後の受診中断の関連性に関する研究。第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年11月、東京。

## 和文

- 1) 白阪琢磨.HIV感染症/エイズ. 公衆衛生看護学 第2版 中央法規出版株式会社. 2016年12月.
- 2) 白阪琢磨. 自覚症状のないうちに進行するHIV感染－感染後10年ほど潜伏し、次第に免疫力が弱まるとエイズを発症します. 中学・高校保健ニュース. 1, 2016年11月.
- 3) 白阪琢磨. 患者を生きる：3191 感染症 HIV5 情報編. 朝日新聞12版. 33, 2016年12月.
- 4) 白阪琢磨. HIV感染防止作戦 若い女性への拡がり懸念. 朝日新聞4版.13, 2016年12月.
- 5) 白阪琢磨. 抗HIV薬. 治療薬ハンドブック2017. 株式会社じほう. 2017年1月.
- 9) 小川良子、城下由衣、木下一枝、池田有里、長與由紀子、城崎真弓、渡部恵子、武内阿味、大野稔子、成田月子、杉野祐子、伊藤ひとみ、川口玲、高山次代、羽柴知恵子、下司有加、大金美和、池田和子：エイズ診療拠点病院HIV担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS看護体制に関する調査」結果から（その1）～患者ケア実施に関する現状と課題～。第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年11月、東京。
- 10) 長與由紀子、城崎真弓、小川良子、城下由衣、木下一枝、池田有里、渡部恵子、武内阿味、大野稔子、成田月子、杉野祐子、伊藤ひとみ、川口玲、高山次代、羽柴知恵子、下司有加、大金美和、池田和子：エイズ診療拠点病院HIV担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS看護体制に関する調査」結果から（その2）～患者からの相談と課題、支援ニーズについて～。第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年11月、東京。
- 11) 西川歩美、小谷野淳子、矢永由里子、鈴木葉子、紅林洋子、村上典子：薬害HIV遺族相談事業「日々についてのおたずね」の活動報告－その1 活動経緯と実施状況－。第29回日本エイズ学会学術集会・総会、2015年12月、東京。

## 口頭発表

### 海外

- 1) Yagura Y., Watanabe D., Ashida M., Nakauchi T., Tomishima K., Togami H., Hirano A., Sako R., Doi T., Yoshino M., Takahashi M., Yamazaki K., Uehira T., and Shirasaka T. Relationships between dolutegravir plasma-trough concentrations, UGT1A1 genetic polymorphisms, and side-effects of central nervous system in Japanese HIV-1-infected patients. *HIV Drug Therapy Glasgow 2016*. October 23-26, 2016, Glasgow, UK.

### 国内

- 1) 白阪琢磨：HIV/AIDS基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府 平成27年度HIV/AIDS基礎研修、2015年5月、大阪。
- 2) 白阪琢磨：HIV職業曝露の予防と対策。兵庫青野原病院院内講演会（小野市）、2015年8月、兵庫。
- 3) 白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。高齢者等介護施設のためのHIV/エイズ研修会、2015年9月、大阪。
- 12) 白阪琢磨：HIV/AIDSの現状と支援。大阪府立大学 公衆衛生看護学I、2016年1月、大阪。
- 13) 白阪琢磨：HIV感染症の現状とHIV陽性者の療養支援について。高槻市保健所 HIV/エイズ講習会、高槻、2016年2月
- 14) 白阪琢磨. 性感染症について. FM大阪ラジオ「HIV/AIDS啓発プロジェクト LOVE+RED」、2016年4月、大阪。
- 15) 伊熊素子、廣田和之、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 新規HIV患者における受診およびスクリーニング検

- 査に至る期間と転帰に関する症例対照研究. 第90回日本感染症学会総会、2016年4月、仙台.
- 16) 白阪琢磨. HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について. 大阪府 平成28年度HIV/AIDS 基礎研修、2016年5月、大阪.
  - 17) 白阪琢磨. HIVの最新治療. 厚生科研エイズ対策研究事業 第12回HIVサポートリーダー養成研修、2016年6月、大阪.
  - 18) 白阪琢磨. HIV/AIDS の治療のトピックス. 第64回日本化学療法学会総会、2016年10月、神戸.
  - 19) 白阪琢磨. HIV陽性者の人権課題～HIV、AIDS等の現状と課題～. 大阪府人権総合講座 人権相談員養成コース、2016年7月、大阪.
  - 20) 白阪琢磨. HIV感染症の検査と治療の現状. 第40回日本血液事業学会総会、2016年10月、名古屋.
  - 21) 白阪琢磨. HIV/エイズやハンセン病などの感染症と人権について. 大阪市平成28年度人権問題研修(管理者層)、2016年11月、大阪.
  - 22) 白阪琢磨. 治療の手引き What's new. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 23) 中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. HIV感染症患者に合併したサイトメガロウイルス感染症治療におけるホスカルネットナトリウム投与時の臨床検査値の変化に関する調査. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 24) 山本雄大、上地隆史、矢嶋敬史郎、渡邊 大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 多中心性キャスルマン病に類似した病状を呈して Kaposi Sarcoma Herpesvirus Inflammatory Cytokine Syndrome (KICS) が疑われたHIV感染者の1例. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 25) 廣田和之、上平朝子、坪倉美由紀、田栗貴博、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、爲政大幾、眞能正幸、白阪琢磨. 当院のHIV感染者におけるMRSAによる皮膚軟部組織感染症に関する後方視的検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 26) 上平朝子、矢倉裕輝、渡邊 大、富島公介、中内崇夫、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨. 当院におけるDolutegravir中止例についての検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 27) 笠井大介、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 当院医療従事者におけるHIV陽性血液・体液曝露後の対応に関する検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 28) 渡邊 大、上平朝子、下司有加、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨. 当院のHIV感染者における急性感染期での診断と診断前の受検行動関する後方視的検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 29) 竹花 惇、岡本 学、下司有加、中濱智子、東政美、鈴木成子、上平朝子、白阪琢磨. 外来受診中HIV陽性者の他院受診状況に関する質問紙調査. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 30) 戸上博明、矢倉裕輝、平野 淳、高橋昌明、吉野宗宏、阿部憲介、神尾咲留未、大石裕樹、竹松茂樹、垣越咲穂、山本有紀、伊藤俊広、山本政弘、水守康之、金井 修、内海 眞、渡邊大、横幕能行、白阪琢磨. UGT1A1 遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 31) 富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、伊熊素子、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨. ドルテグラビルの錠剤と簡易懸濁法による投与時の血中濃度比較. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 32) 藤原良次、橋本 謙、山田富秋、種田博之、小川良子、早坂典生、藤原 都、白阪琢磨. 血液製剤由来HIV感染者の心理的支援方法の検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 33) 白阪琢磨、橋本修二、川戸美由紀、日笠 聡、八橋 弘、岡 慎一、福武勝幸. 血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第1報 CD4値、HIV-RNA量と治療の現状と推移. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 34) 川戸美由紀、橋本修二、岡 慎一、福武勝幸、日笠 聡、橋本 弘、白阪琢磨. 血液製剤によるHIV感染者の調査成績 第2報 抗HIV薬の組み合わせの変更とCD4値、HIV-RNA量の関連性. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
  - 35) 矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨. エルビテグラビルおよびコピシタットの血漿トラフ濃度に関する検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.

- 36) 佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、岡本友子、白阪琢磨. HIVサポートリーダー養成研修 7年間のまとめ. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.

#### 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし